志あふれるまち
鹿児島県志布志市
SHIBUSHI
KAGOSHIMA, JAPAN

企業版ふるさと納税
地域共創プロジェクト



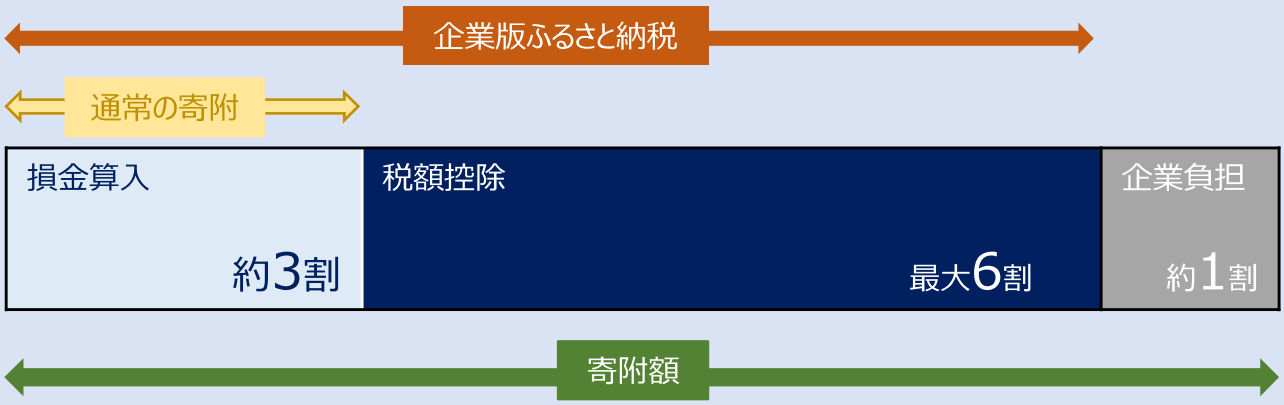
総合政策課

令和８年10月

『企業版ふるさと納税』とは

企業版ふるさと納税（正式名「地方創生応援税制」）とは、国が認定した地方公共団体の地方創生プロジェクトに対し、企業が寄附を行った場合に、寄附額の最大6割を法人関係税から税額控除する仕組みです。

損金算入による軽減効果（寄附額の約3割）と合わせて、最大で寄附額の約9割が軽減されます。実質的な企業の負担が約1割まで圧縮されます。



＜例＞1,000万円寄附すると、最大約900万円の法人関係税が軽減

寄附によって広がる共創社会

多くの「志」の実現に向け、企業版ふるさと納税制度を活用しながら、企業の皆様と共に地域の創造を目指します。



地域・社会貢献

パートナーシップの構築

新たな事業の展開

留意事項

- １回あたり**10万円以上**の**寄附が対象**となります。
- 寄附を行うことの代償として経済的な利益を受けることは禁止されています。
- 本社が所在する地方公共団体への寄附は、本制度の対象となりません。
  （地方税法における「主たる事務所又は事業所」を指します。）

志布志市の寄附対象事業

志布志市が認定されている地方創生プロジェクト（地域再生計画）は『第2次志布志市まち・ひと・しごと創生総合戦略（改訂版）』です。

ここでは、寄附対象事業となる**４つの基本目標**と**その内容**について紹介します。

基本目標１
稼ぐ志布志をつくるとともに、安心して働けるようにする

労働力人口の減少に歯止めをかける上では、魅力的な仕事があり、ここに住み、働きたいと思えるまちであることが重要です。

そのために、本市の強みである農林水産業や志布志港を生かした産業の振興を図ることで稼ぐ力を高め、安定した雇用の場の確保を目指します。

また、若者や女性、高齢者、障がい者、就職氷河期世代の方々など、誰もが安心して働き、地域で活躍することができる地域づくりを通じ、担い手の確保や掘り起しにもつなげていきます。

- 農林水産業の成長産業化
- 新規就農総合支援
- 国内貨物志布志港利用促進
- 地元活躍人材育成
- 企業誘致
- 志布志港輸出拡大

基本目標２
ひとや企業とのつながりを築く

本市が持続性と発展性を備える上では、本市に愛着や誇りを持つひとや企業を創出し、さらにはそういった方たちとつながりを築くことが重要です。

そのために、いなか暮らしを望む方の本市への移住を促進することや小学校・中学校・高等学校段階における地元に誇りを持つ人材の育成を推進し、本市へのひとの定着を目指します。

加えて、市外にありながらも本市や本市の人々と多様なかたちで関わる関係人口や企業とのつながりを深め、まちづくりの力にしていく取組を展開します。

- 移住定住拡充
- 関係人口創出・拡大
- 都市住民向けPR
- まち思い人材育成
- 官民連携推進

基本目標３
結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる

少子化の流れに歯止めをかけていく上では、安心して結婚し、子どもを産み育てることができる環境を整えることにより、特に若い世代において、結婚・出産・子育ての希望を実現できることが重要です。

そのために、引き続き、結婚や出産に対するサポートを行うとともに、包括的で切れ目のない子育て支援策を講じます。

加えて、子育て世代の働く場など、社会全体で少子化対策に取り組む機運を醸成することや、本市における教育の場を整え、子どもたちが健やかに育つ地域社会の形成を目指します。

- 結婚支援
- 子育て支援
- こころざしアップ教育推進
- ウェルカム赤ちゃん
- 仕事子育て両立支援

基本目標４
魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる

人口減少社会に適応する上では、人々が暮らしやすいと感じられるようなまちの基盤を維持・確保しつつ、さらに、人々が訪れたい、住み続けたいと思える地域づくりを通じ、まちの魅力を高めることが重要です。

そのために、都市機能や日常生活サービス機能、集落生活圏の維持・確保を目指すとともに、広域での連携なども推進します。

また、本市ならではの観光地づくりや環境にやさしいまちづくりに取り組むことや、地域の防災力を高めることを通じ、未来の世代へ引き継いでいけるまちの形成を推進します。

- 快適な生活支援
- 公共施設最適化
- 観光パワーアップ
- 環境にやさしいまちの推進
- 地域防災力強化
- 商工業にぎわい創出
- 広域連携推進
- 安心暮らし推進

目　次

基本目標１　稼ぐ志布志をつくるとともに、安心して働けるようにする

農業公社支援プロジェクト ―― 01

志布志港新若浜地区国際コンテナターミナル利用促進プロジェクト ―― 02

輸出促進支援・志布志港PR活動プロジェクト ―― 03

基本目標２　ひとや企業とのつながりを築く

多世代交流施設プロジェクト ―― 04

学びの多様化学校の設置促進プロジェクト ―― 05

市内高等学校魅力化支援プロジェクト ―― 06

基本目標３　結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる

小・中学校入学支援金支給プロジェクト ―― 07

土曜学習教育事業プロジェクト ―― 08

基本目標４　魅力的で安心して暮らせるまちをつくる

志布志駅周辺公園 賑わい創出プロジェクト ―― 09

スポーツ合宿誘致プロジェクト ―― 10

歴史的建造物活用推進プロジェクト ―― 11

RPF化及びリサイクル処理プロジェクト ―― 12

災害対策プロジェクト ―― 13

農業公社支援プロジェクト

基本目標１　稼ぐ志布志をつくるとともに、安心して働けるようにする

■事業の課題・目的

持続可能な地域農業の確立が必要とされている中で、高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加、気候変動による生産リスクの高まりなどの課題が多くあります。

これらの課題に加え、大型農業機械等価格の高止まりによる農業資材、農業機械等の更新が困難となっている課題を解決・支援するため、「農作業の受委託」と「後継者の育成・確保」を軸に農業者の経営安定を図る農業公社と事業を推進しています。

■事業内容



〇農業経営を希望する農業後継者及び新規就農者を育成することを目的に、農業公社の研修農場において、農業技術の実践研修等を行い農業での自立を目指します。

・研修期間：２年間
・年齢：概ね45歳未満
・研修品目：施設ピーマン
・栽培面積：２名同世帯者（20a）、１名（11a）
・研修手当：１年目
　２名同世帯者　26.25万円/月
　１名　16.25万円/月
　２年目　独立経営方式による研修のため、支給なし

■なぜ寄附を募るのか

「土を耕し、未来を耕す。志布志の農業を、日本の食の未来を、共につくりたい。」

志布志市農業公社は、これまで地域の農家をはじめ、行政や関係団体と共に、額に汗して豊かな実りを生み出してきました。しかし、今、農業が直面している風は、かつてないほど冷たく、強いものです。

「これ以上、肥料や燃料、農業機械の価格が上がっては続けられない……」、「高齢なうえ、後継者がいない」、先祖代々守ってきた畑を前に、離農を決意する農家の声を聞くたび、危機感を募らせています。また、農業公社の受託作業料金の値上げや機械の更新もしかりです。農家が減るということは、農地が荒廃化し獣害が増え、日本の食卓から新鮮で安全な食べ物が消えていくということです。

このことからも、作業効率化などで農家のサポートを強化し、農業を志す次世代の人材育成が必要不可欠です。



■メッセージ

皆様からいただくご支援は、目先の延命ではなく、『資材高騰に負けない強い農業構造への変革』と『若い農家が夢を持てる仕組みづくり』のために、無駄なく活用させていただきます。

地域農業を支えることは、我々の生活、ひいては命を守ることに繋がります。

志布志の豊かな大地から、日本の農業の逆転劇を共につくりましょう！

志布志港新若浜地区国際コンテナターミナル利用促進プロジェクト

基本目標１　稼ぐ志布志をつくるとともに、安心して働けるようにする

■事業の課題・目的

志布志港新若浜地区国際コンテナターミナルは、2009（平成21）年の供用開始以降、コンテナ貨物取扱量を順調に伸ばしており、現在では10.9万TEUを扱う、南九州の物流を支える重要な拠点となっています。

しかし、国際物流を取り巻く環境は大きく変化しており、荷主企業の多様なニーズに応えながら、安定的にコンテナ貨物を確保し利用をさらに広げていくことが重要となっています。特に、近隣港との競争の中で、志布志港の優位性や利便性を十分に発信し、港の利用価値を高めていかなければなりません。また、地域企業の輸出入拡大や新たな貨物の掘り起こしを進めるためには、継続的なポートセールスや情報発信、関係機関との連携強化が不可欠です。

■事業内容



○国内外の荷主企業や物流事業者に対する積極的な支援を実施し、コンテナターミナルの稼働向上と物流機能の強化を進めます。

- 輸出入貨物に対する利用助成
- 冷蔵冷凍電源施設利用助成
- 冷蔵冷凍コンテナ調圧助成
- 新規航路開設助成

○港の利便性や航路情報、利用メリット等を広く周知するためのPR活動を展開し、新たな貨物の獲得や既存貨物の利用拡大を図ります。

■なぜ寄附を募るのか

志布志港は、地域産業の競争力を支える「物流の生命線」であり、その機能を高めることは、志布志市だけでなく、広く南九州全体の発展につながります。このプロジェクトを進めることで、地域企業の物流コストの低減、輸送の安定化、輸出入の拡大を目指しています。

しかし、港の利用促進には、継続的な営業活動や広報活動、関係者との調整など、行政だけでは十分に対応しきれない取り組みも多くあります。

そのため、企業の皆さまからのご寄附を原動力として、より戦略的かつ継続的にプロジェクトを進めていきたいと考えています。

皆さまからのご支援は、港の利用拡大を通じた地域経済の活性化、雇用の維持・創出、そして地域企業の成長支援につながります。



■メッセージ

皆さまからのご支援は、志布志港新若浜地区国際コンテナターミナルの利用拡大を後押しし、地域の企業活動を支える確かな基盤づくりにつながります。そして、志布志港を選んでいただくことが、地域の産業を強くし次の投資や雇用を生み、さらに魅力ある地域づくりへとつながっていきます。

ぜひ、志布志市の挑戦にお力添えいただき、地域と企業がともに発展する未来づくりにご協力をお願いします。

輸出促進支援･志布志港PR活動プロジェクト

基本目標１　稼ぐ志布志をつくるとともに、安心して働けるようにする

■事業の課題・目的

志布志港は、南九州の物流拠点として重要な役割を担っており、地域経済の発展に欠かせない港です。一方で、地域企業の輸出拡大をさらに進めていくためには、海外市場への販路開拓や、輸出に必要な情報の収集・整理、物流面での課題解決など、取り組むべき課題が多くあります。

また、志布志港の持つ利便性や優位性を、県内外の企業や関係機関に十分に周知し、港の認知度を高めていくことも重要です。

輸出を希望する企業に対する支援と志布志港の魅力発信を一体的に進める、港の利用拡大と地域産業の活性化につなげていくことが重要です。

■事業内容



〇地域企業の輸出促進を支援し、志布志港の利用促進につなげます。

・海外食品市場視察ミッションや海外食品見本市への参加経費を助成

〇志布志港の魅力や利便性を国内外に広く発信するためのPR活動を実施します。

・志布志市として各展示会等に参加し、志布志港の物流サービスや助成制度をＰＲ

■なぜ寄附を募るのか

輸出促進や港のPR活動は、地域産業の将来を左右する重要な取り組みですが、その効果を高めるためには、継続的かつ積極的な支援が必要です。

しかし、企業訪問、情報発信、商談機会の創出、関係機関との調整などには一定の経費がかかり、行政の財源だけでは十分な展開が難しいのが現状です。

より実効性の高い輸出促進支援と志布志港のPR活動を実現していくためには、皆様のご寄附による支援が不可欠です。

寄附によって、地域企業の海外展開を後押しし、志布志港の利用拡大を通じて、地域経済全体の活性化へとつなげることができます。



■メッセージ

皆さまからのご支援は、地域企業の輸出チャレンジを支え、志布志港の可能性をさらに広げる力になります。

志布志港の利用が広がることは、物流の効率化だけでなく、地域企業の競争力向上、新たな雇用の創出、そして、持続可能な地域経済の形成にもつながります。

皆さまと志布志市が共に歩み、地域の未来を切り拓いていくために、ぜひ温かいご支援をお願いします。

多世代交流施設プロジェクト

基本目標２　ひとや企業とのつながりを築く

■事業の課題・目的

志布志市では、少子化と人口減少が進む中、子育て世帯のニーズに応える新たな取り組みを進めています。令和８年７月にオープンした多世代交流施設「こころば」は、子育て世代が望んでいた「室内の遊び場」として、また、子育て世代を中心に多世代が集い、働く人々や地域住民、観光客などが自然に交流できる場としての機能も持っています。

皆さまからのご支援をいただきながら無事オープンすることができ、これから更なる多世代の交流を生み出すために、サービスの質向上や賑わいを創出する整備を進めます。

■事業内容



令和７年度に建物（４階建て）の改修を行い、各フロア整備を行いました。

指定管理制度での運営をスタートさせましたが、今後も利用者のニーズに応じた整備やサービス内容の向上のための整備を行います。

・駐車場用地購入、駐車場拡張など
・施設運営の指定管理料

■なぜ寄附を募るのか






この多世代交流施設「こころば」は、急速な少子化が予想される中、子どもを中心にしたまちづくりの必要性を感じ、整備を行いました。

オープン以降、市内外からの利用者があり、まちなかの新たなにぎわいが創出されてきています。

私たちが目指す多世代交流施設は、建物を整備して終わりではなく、オープン後の運営（指定管理）までを一体のプロジェクトとして捉えています。

指定管理者と共に中長期的な視点で、より良いサービスや安全対策の強化、施設の利便性向上を目指し、常にアップデートし続ける施設であるために、ご寄附によるこのプロジェクトへの支援が必要です。

■メッセージ

『こころが集まるひろば』として「こころば」の愛称で呼ばれているこの施設は、世代を超えた交流と安心できる居場所を提供していきたいという思いでプロジェクトに取り組んでいます。

オープンに至るまで、たくさんの企業の皆様からご寄附という支援をいただき、官民連携が実現されたものとなりました。この施設の賑わいが少しずつ波及効果として広がっており、多世代が自然に集う地域の核として一歩を踏み出しました。この先、皆さまと志布志の未来を共に創り、共に歩んでいきたいと強く思っています。

学びの多様化学校の設置促進プロジェクト

基本目標２　ひとや企業とのつながりを築く

■事業の課題・目的

さまざまな理由で学校に行きづらさを感じている児童・生徒が増加し、従来の学校や支援体制では学びを継続できない子どもたちも増えています。そんな子どもたちが安心して学べる環境を整えるため、県内初の本校型※の学びの多様化学校「悠志学園」を設置しました。

不登校の子どもたちの新たな選択肢として、彼らが学びを継続できるよう一人ひとりに寄り添ったアプローチをしていきます。

※本校型：単独の校舎を設置

■事業内容



【志布志市立学びの多様化学校の目指す学校の姿】
「ゆっくり じっくり ともに 未来へ」
～子供の多様性や主体性を尊重し、人とのつながりを大切にしながら、子供たち一人一人に応じた学びを支援します～

・年間授業時数を減らし、校時表にゆとりを
・登下校時には、リラックスタイムを
・誰でもフランクに心の交流や学びの交流ができるような環境づくり

■なぜ寄附を募るのか

令和８年４月に開校し、学校に行きづらさを感じている子どもたちが安心して学ぶことができています。

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、公認心理士等による相談を気軽に行える環境や、個別学習コーナー、グループ学習コーナー、センサリールーム等の自分に合った学び場を選択できる施設設備を備えています。

整備して終わりではなく、引き続き、児童・生徒が安心して学び、成長していけるよう、多様なニーズに応じた環境を継続して整備していく必要があり、そのためには皆様の支援が不可欠です。



■メッセージ

「学校に通えない子どもをなくしたい」

そんな誰一人取り残さない想いを胸にプロジェクトに取り組んでいます。子どもたちが未来へ大きく羽ばたくために、私たちは整備を進めていきます。

将来、子どもたちが精神的にも経済的にも自立し、豊かな人生を送れるようサポートするため、ぜひ、このプロジェクトへのご支援をお願いします。

市内高等学校魅力化支援プロジェクト

基本目標２　ひとや企業とのつながりを築く

■事業の課題・目的

授業料無償化や公共交通の運転手不足により、県立志布志高校への進学を希望する生徒数が減少し、定員まで満たない状況が続いています。また、複数の市外私立高校スクールバスが本市を往来し、私立高校の選択肢も増えている状況があります。

このような現状を踏まえ、県立高校の定員数を確保しつつ市内にある県立・私立高校の２校を進路先として選択してもらうため、市内高等学校の魅力化を図るものです。

この事業により、地域課題及び地域貢献意識を深め、人材育成につなげる目的もあります。

■事業内容



県立志布志高校は地域の中学生向けの一日体験入学を充実させ、在校生が積極的に運営に携わるなど、ほかの高校と差別化を図ることで、魅力化につなげています。

私立尚志館高校は、在校生向けの芸術鑑賞の機会に補助金を活用し、本市で学びながらも芸術に触れる機会を創出し、魅力化に繋げています。

また、共通して、英検・漢検の各種検定受験料を合格時に全額補助することで、教育環境の充実にも寄与しています。

■なぜ寄附を募るのか

この高等学校の魅力を向上するプロジェクトは、生徒数確保や学校活性化だけでなく、地域に愛着を持つ若者の育成にも寄与します。

また、市内には伝統ある２つの高校があり、卒業後に、各地でご活躍されている市内出身者が多数いらっしゃいます。

高校生を応援する事業が継続されることで、若者の地元定着が促され、やがて産業の持続・発展、地域の稼ぐ力につながっていくと考えます。



■メッセージ

本市の人口動態では、15歳～24歳の若者世代の人口流出が毎年4～500人程度となっており、高校や高等教育機関の教育環境や周辺環境により影響を受けていることが分かっています。

そこで、当時高校側とも協議を行い、各種検定補助が高校の魅力化やキャリア教育に繋がると考え事業開始となりました。

市内にある高校に通学する高校生（あなたの後輩）のために、そして、志布志市だけでなくこれからの地域の未来を支える人材を育成するために、このプロジェクトへのご支援をお願いします。

小・中学校入学支援金支給プロジェクト

基本目標３　結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる

■事業の課題・目的

近年のエネルギー価格や物価高騰により、生活費全般が圧迫されています。学校入学時に購入する制服やランドセル、体操着、教材なども例外ではなく、一括でかかる初期費用、いわゆる「隠れた教育費」も年々高騰している状況があります。

経済的な理由によって必要な学用品が揃えられない、あるいは体験の機会が失われるといった教育格差を防ぐため、令和８年度から新小学１年生及び新中学１年生をもつ保護者に対して入学支援金を支給しています。

入学時における子育て世帯の経済的負担を軽減し、すべての児童・生徒が平等に義務教育を受けられるようにすることを目的としています。

■事業内容



市内にお住まいで、新小学１年生及び新中学１年生の保護者（義務教育学校も含む）の方を対象に入学支援金を支給します。

支給額：児童・生徒１人につき３万円

■なぜ寄附を募るのか

これからの未来を担う子どもの可能性を広げ、地域社会を支えていく子どもの成長を豊かにすることを一番に考えながらプロジェクトに取り組んでいます。

すべての子どもが平等に義務教育を受けられることを目指して、子育て世代の経済的負担の軽減を図るプロジェクトをスタートしましたが、物価高騰の状況が続く中、継続した取り組みとする必要があります。

皆様からのご寄附が、子育てしやすく充実した教育環境をつくり、子どもの未来を守り育てる貴重な財源となります。



※AIで作成したイメージ

■メッセージ

子どもの頃にしっかり教育を受けることで、将来、社会で活躍する大人へと成長します。様々な家庭環境に影響されることなく、平等で充実した教育を受けさせる環境をサポートし、子どもの教育を受ける権利を確実に保障することが社会の責務だと考えています。

今の子どもたちを応援することで、未来を支える子ども達やその家族が、希望を持ち、笑顔で暮らせる社会の実現を目指していきます。企業の皆様と行政が一体となって子どもたちの未来と可能性を共に広げていきましょう。

土曜学習教育事業プロジェクト

基本目標３　結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる

■事業の課題・目的

市内の児童・生徒を対象に、外部講師による学習教室を開設することで、土曜日の有意義な過ごし方を提供し、「学習に集中できる時間」を確保することで、子どもたちが落ち着いて学べる環境をつくることを目的としています。また、「この地域で学びたい、学ばせたい」と児童生徒や保護者が思える環境を維持し、ふるさとへの誇りや将来に向けて志をもって地域に貢献できる人材の育成を目指しています。

■事業内容



生徒（中学生）を対象とした外部講師による学習教室「志学教室」を毎月第１・４土曜日と夏休み期間中の計15日を年間で実施しています。

生徒一人ひとりの学習環境に配慮した学習指導だけでなく、特別講座（夢プロジェクト）として体験活動等を実施しています。

令和８年度から、小学生を対象として、夏休み期間中に英語科目を５回実施しました。

■なぜ寄附を募るのか

【志布志の未来は、学びから始まります】

本市では、若者に選ばれる地域づくりを目指し、特に教育分野に力を入れています。その具体的な取組としてこのプロジェクトを実施し、子どもたちの学力向上と地域への愛着醸成を図っています。

全国学力・学習状況調査において、中学校３年生国語の正答率が県平均を上回ったことは、地域の教育力を示す重要な指標です。これをさらに伸ばすためには、質の高い学習環境の整備や指導体制の充実が不可欠です。

講師の人数を考慮した学習形態の工夫や個々の学力の定着に向けた指導の工夫に努め、地域の未来を担う子どもたちの学力向上を支援していきたいと考えています。

皆さまのご寄附は、教育の質を高め、志布志市に誇りと愛着を持つ若者を育てる大きな力となります。



■メッセージ

学習教室（「志学教室」）がある土曜日だけでなく、志学教室がない土曜日・日曜日における自宅での学習時間も増え、また、参加することで土曜日が充実しているという児童生徒・保護者からの声が聞こえています。

皆さまのご寄附は、志布志市の教育環境の充実に大きな力となり、地域に誇りを持つ若者を育てる一助となります。地域の未来を支えるため、温かいご支援をお願いします。

志布志駅周辺公園 賑わい創出プロジェクト

基本目標４　魅力的で安心して暮らせるまちをつくる

■事業の課題・目的

海の玄関口として港を中心に発展してきた志布志市ですが、広大な埋め立て港であるがゆえに、海や港をまちから感じられず、市民にとって必ずしも親近感のある存在ではありませんでした。そこで、「みなと」と「まち」をつなぐ志布志駅周辺の公園に、大型遊具や健康遊具などの整備と併せ、地域住民や来訪者の交流拠点の整備を行うこととしました。

志布志駅周辺公園「大浜緑地」を交流拠点として、また商店街エリアや志布志麓までの道のりを繋ぐ滞在拠点として期待し、まちの活力・賑わいにつながることを目的としています。

■事業内容



「まちのゲートウェイ」となるよう、新たな遊具や拠点施設の新設を行い、地域住民のみならず、来訪者の交流の場を創ります。

・令和８年度事業
　遊具新設：95,000千円（令和８年度供用開始）
　拠点施設設計：15,000千円
・令和９年度事業
　拠点施設整備　：180,000千円
　企画・運営業務：7,500千円
・令和10年度事業（拠点施設供用開始）
　企画・運営業務：7,500千円

■なぜ寄附を募るのか

志布志港及びJR志布志駅等の交流拠点や各地域の市街地など市民生活や産業活動を支える拠点整備の充実は、新たなまちづくりの核となり、魅力的で賑わいのあるまちづくりには必要であると考えます。

これから遊具や拠点施設を整備していきます。拠点施設については民間企業と共に高品質なサービスを考えていきます。

地域住民の賑わいだけでなく来訪者との交流の場として、まちに活力を見出す公園を整備するために支援をお願いします。



■メッセージ

公園というオープンスペースのもと、市民や来訪者が集い、様々な世代での交流の場をつくりたいと考えております。また、本施設整備により、令和８年度に開業した、多世代交流施設「こころば」との連携により、まちの回遊性向上等が見込まれ、点ではなく、面でのにぎわい創出を期待しています。

「行ってみたいまち・住んでみたいまち・住んでよかったまち」を目指し、本市の新たな賑わいの場を創出します。ぜひこのプロジェクトへのご支援をお願いします。

スポーツ合宿誘致プロジェクト

基本目標４　魅力的で安心して暮らせるまちをつくる

■事業の課題・目的

志布志市は、スポーツに適した温暖な気候や志布志・大阪間を毎日就航しているさんふらわあ、充実したスポーツ施設などを生かし、全国から多くの学生が訪れるスポーツ合宿の拠点となっています。サッカー・野球・テニスなど多彩な競技に対応した施設が整備されており、地域経済の活性化にも貢献しています。

合宿団体や大会運営のサポートをしながら、地域とスポーツによる絆を深めています。さらに体育施設に加えて文化施設を活用し、吹奏楽などの文化系団体の誘致にも取り組んでおり、スポーツ分野に限らない地域交流を目指しています。

■事業内容



・合宿運営に必要なサポート（宿泊施設や体育施設等の予約支援）
・合宿を実施する団体に対して宿泊費や交通費を支援する「スポーツ合宿等奨励金」の交付

・施設の修繕や改修など（老朽化した野球場の全面改修など）
・未整備施設への対応など（総合体育館へのエアコン設置など）

■なぜ寄附を募るのか

国勢調査によると、志布志市では年間約500人の人口減少が続いており、地域の活力維持が大きな課題となっています。

このような状況を踏まえ、志布志市では「関係人口」の増加に力を入れており、その一つの取り組みが観光スポーツ分野です。合宿に伴い全国の学生や関係者が志布志市に足を運んでいます。

こうした活動は、地域経済の活性化だけでなく、訪れた方々にとって志布志市が「人生の１ページ」として刻まれる貴重な機会となります。

しかし、スポーツ合宿誘致を継続・発展させるためには、老朽化した野球場の全面改修や未整備施設総合体育館へのエアコン設置などの対応が不可欠です。これらには多額の費用が必要であり、施設の整備内容を充実させるために、皆様のご寄附による支援が不可欠です。



■メッセージ

このプロジェクトは、地元の宿泊事業者や飲食店をはじめとした関係事業者、地元の学校やスポーツ少年団など、様々な関係者を巻き込みながら推進していかなければならないという思いで事業に取り組んでいます。

それは、志布志市を競技力・技術力向上のための合宿地として選んでいただくだけの価値として捉えるのではなく、我々自治体にとっても合宿していただく団体にとってもお互いに成長することができる可能性を秘めた魅力あるプロジェクトであると確信しているからです。

「人生の１ページ」を作るこのプロジェクトへのご支援をお願いします。

歴史的建造物活用推進プロジェクト

基本目標４　魅力的で安心して暮らせるまちをつくる

■事業の課題・目的

志布志市では、志布志東部地区（志布志駅周辺から志布志麓を中心とするエリア）について、地域の歴史遺産を活用した魅力ある観光まちづくりを進めています。市街地の中心が東から西へ移行していく中で、当該地区は人口減少に加え、高齢世帯の増加、商業の衰退に伴う空家の増加などが課題です。

令和８年度に歴史的建造物（商家）の改修・整備を行いましたが、今後も点在する歴史的建造物を民間事業者と共に整備していき、新たな賑わいを創出することを目指します。

■事業内容





〇令和７年度に整備した歴史的建造物群の整備を起点として、今後、点としての整備だけではなく、点を線に、さらには面として整備することが必要であると考えます。

・新たな歴史的建造物の改修、活用
・老朽化した歴史的建造物の修繕

■なぜ寄附を募るのか







次世代に引き継がなければならない歴史的建造物の改修には多大な改修費用が必要です。歴史的建造物をただ保存するのではなく、活用することで次世代へ残していけると認識しています。

次世代がシビックプライドを持つとともに、新たな賑わいを創出する魅力あるまちづくりを推進するため、皆様のご寄附による支援をお願いします。

■メッセージ

歴史的建造物は一度壊れると復元は困難です。修繕の遅れは地域資産の消失を意味します。これからは、これらの建物を単に過去の遺物として「守る・保存する」だけでなく、地域の未来を動かす存在として再生させる必要があると考えています。

歴史的建造物の改修を起点として、これから何十年も人が輝き、歴史が紡がれるまちをつくるために、ご支援をお願いします。

RPF化及びリサイクル処理プロジェクト

基本目標４　魅力的で安心して暮らせるまちをつくる

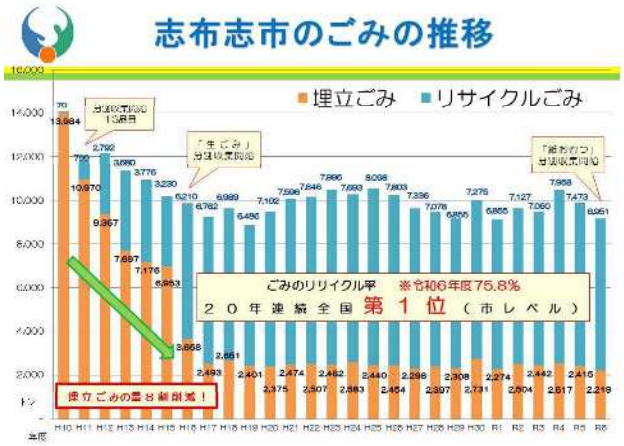
■事業の課題・目的

志布志市では、少子化と人口減少が進む中、20年連続で市レベルでのリサイクル率１位を誇り、市民一体となったごみ分別の取り組みを行っています。他市ではなかなかできない取り組みも、何十年と実施してきている志布志市だからこそ、新たなごみ分別にもチャレンジできます。

一方で高齢化が進み、分別したくても出来ない方が増えてくる中、分別を簡単にできる方法や地域活性と結び付けた分別やごみ出しの補助も行っています。

これからも更なるサービスの質向上や効率性を高め、地域内の人々がリサイクルや分別をすることで環境にやさしいまちを推進していきます。

■事業内容



・生ごみ・草木剪定枝堆肥化
・畳・木くず等RPF※化
・資源ごみ中間処理（紙おむつ等）

※RPFとは…主に産業系廃棄物のうち、リサイクルが困難な古紙や廃プラスチック類を主原料とした固形燃料のことです。

■なぜ寄附を募るのか

このRPF化やリサイクル処理業務は、焼却施設に頼らず、今ある埋立処分場をいかに永く使用し続けられるかを考え、環境美化を目的に平成10年から全市民で取り組んできました。

特に令和６年度から本格的に実施している紙おむつの水平リサイクルの取り組みは、まだまだ実証の段階ですが、持続可能なサーキュラーエコノミーを実現するために、地球規模で考えていく必要性があると考えています。

志布志市が世界に先駆けて環境にやさしいまちとして取り組んでいきたいのですが、先進的な取り組みであるがゆえにプロジェクトを進めるためには、費用負担が多く、皆様のご寄附による支援が不可欠です。



■メッセージ

志布志市では、「美しい地球を子どもたちに」残していくために、紙おむつも含め、ごみを焼却することなく、ごみを資源ととらえています。使っていらなくなった物は、きれいに洗って分別してごみ出しするようにし、袋には名前を書いて、出したごみに責任を持ちます。

【混ぜればごみ、分ければ資源】です。今ある資源を永く使うことが、SDGｓにある「持続可能な社会の実現」につながっていくと考えています。ぜひこのプロジェクトへのご支援をお願いします。

災害対策プロジェクト

基本目標４　魅力的で安心して暮らせるまちをつくる

■事業の課題・目的

志布志市は台風や大雨による風水害、土砂災害に加え、南海トラフ巨大地震など、大規模な自然災害の脅威にさらされています。市民の皆様が安心して暮らせるまちであるためには、災害への対策は重要な課題です。

地震、津波、台風等の自然災害から市民の皆様の生命や財産、公共施設等を守り災害を未然に防ぐため、各種防災対策に関する計画の作成や更新、避難対策を実施していきます。

また、各種災害に迅速に対応できるよう体制整備の強化を進め、防災訓練の実施や災害備蓄品の整備を行いながら、避難・備蓄対策を推進していきます。

■事業内容



・市総合防災マップ（土砂災害、高潮、洪水）作成
・非常用発電機購入
・災害時用備蓄品（食料・水等）購入

〇市民の皆さんへ災害発生後３日間分の各種備蓄のお願いの呼びかけ

■なぜ寄附を募るのか

令和７年８月には九州南部で記録的な豪雨を記録するなど、近年地球温暖化等の影響でこれまでにはない激しい災害が増加しています。また、鹿児島県による南海トラフ巨大地震発生時の被害予測調査によると、志布志市の最大震度の想定は震度６強と発表されました。

このような現状がある中、いつ来るか分からない災害に対して、防災・減災対策の推進を図ることは大変重要です。迅速かつ的確な対応で市民の皆様の安心・安全を守る、取り組みを進めていきます。



■メッセージ

南海トラフ巨大地震が発生すると、最悪想定の場合、日本の人口の半分が被災し、その被害は東日本大震災の10倍以上となっています。

そのような中、最も大切なことは一人ひとりが救助される側にまわらないということです。救助する側の人数は限られているので、救助される側の人数が減り、救助する側にまわることができれば、単純に人命の救助率は上がっていきます。

そのために、平時においては一人ひとりの防災意識を高めることが最も重要で、併せて最低１週間分の備蓄が必要と考えます。

現在、意識を高める出前講座は実施していますが、備蓄を分散保管するためのコンテナが不足していますので、多くの皆さまのご支援をお願いします。

同じ未来を、共に創る。

志あふれるまち
鹿児島県志布志市
SHIBUSHI
KAGOSHIMA, JAPAN